



2020年7月3日

国連女子差別撤廃委員会 (CEDAW) 委員長 ヒラリー・グベデマー殿
CEDAW 委員各位

動物行動学研究者 竹内久美子
慰安婦の真実国民運動 幹事長 山本優美子

貴委員会が3月9日付けで日本政府に宛てた「第9回日本政府報告書の提出前の委員会からの事前質問リスト (CEDAW/C/JPN/QPR/9)」の paragraph 2 に「現行の女性を皇位継承から除外する皇室典範に関し、女性を継承させるべくどのような方途が審議されているのかについて詳細を報告されたい」とある。

私たちは貴委員会に皇室典範と女性皇位継承に関する問題を撤回し削除するよう要請する。これは女性排除や差別の問題ではなく、委員会で議論するには不適切である。その理由と男系男子継承の意味を以下に述べる。

Y染色体と皇統の男系男子継承の意味

日本では、神道の祭祀王である天皇の座を男系男子でつないできた。それは初代の神武天皇から第126代である今上陛下まで変わることがなかった。

もっともこの126代の中には例外があり、女性の天皇が8人、10代おられる(お二人は二度天皇になられた)。しかしどの女性天皇も、男系男子の天皇となられるべき方がまだ幼いといった事情から、単なる中継ぎとして立たされただけで、皇統の男系男子による継承を妨げたことはなかった。

このような男系男子による皇統の継承は、生物学的には、男性しかもっていない性染色体Yを、ほとんどそのままの形で継承してきたことを意味する。遺伝子は染色体に存在し、人間では22対の常染色体(性に関係なく持つ染色体)と1組の性染色体を持っている。性染色体は男でXY、女でXXという組み合わせで持っている。そして常染色体と性染色体Xは、対になる染色体なので、染色体のどこかに切れ目が入り、互いの中身を交換する、交差という現象が起きる。すると、世代を経るうちにだんだんと中身が希釈され、わずか数世代で初代の遺伝子が消え去ってしまう。ところがXとYとは基本的に交差が起きない。そこで父から息子へはほぼ同じYが継承される。

こうして初代の神武天皇のY染色体は、ほとんどそのままの形で今上陛下に受け継がれているのである。今上陛下の弟宮である、秋篠宮皇嗣殿下、秋篠宮皇嗣殿下のお子さんである、悠仁親王殿下にも皇室のYが受け継がれている。

昔の人々はこのような生物学的意味を知らなかった。それでも皇統の男系男子による継承に拘った。それは直感的に「父から息子へ純粋に受け継がれる何かがある」と見抜いたのではないかと思う。これは単なる憶測ではない。人間を含め、どんな動物もある個体を、自分とどれくらい血縁が近いか、あるいはまったくの他人なのかを見抜くことは最大の課題である。父から息子へは何か純粋に受け継がれると見抜く能力を備えていても不思議はないのである。

イギリスの王室ではしばしば女王が王位に立つ。そして女王の息子が次の王位に立つと、王朝名が変わり、それは女王の夫君の実家にちなんだ名である。つまり新しい王のY染色体は、女王の夫君のY染色体をほぼそのまま受け継いでいるということをかの国人々が直感的に見抜いていた。だからこそ、そのように王朝名を変えるのではないだろうか。